

# 「平成30年7月豪雨災害に係る災害復旧及び被災者支援の取組について」の 住民説明会（9月26日分）の議事録

## 1 日時・場所

平成30年9月26日（水）19時～20時55分

海田公民館 大ホール

## 2 質疑応答

### (1) 質疑者数

14名

### (2) 内容

No.	意見・質問(住民)	回答
1	今回の災害で亡くなられた方の人数を教えてください。	【町回答】 亡くなられた方は、町内で1名。
	瀬野川や畑賀のほうで行方不明の方がいるようだが、その状況を教えてください。	【町回答】 畑賀の方が2名、行方不明となっている状況。
2	現時点での町全体の家屋の被害状況について教えてください。	【町回答】 現在、町が把握している被災家屋の棟数は、全壊14棟、半壊81棟、一部損壊17棟、床上浸水103棟、床下浸水146棟。
	資料2で説明のあった4箇所以外のインフラの被害状況はどうか教えてください。	【町回答】 資料2の4箇所は、土石流等で大きな被害が出た箇所の復旧状況の説明のため資料に記載した。その他にも水路が溢れたり、一部崖が崩れたりと大小様々な被災状況がある。
3	被害の無かった山の木は県により伐採された。しかし、以前から要望していた我が家の裏山の木は伐採してない。危ないので状況確認に来てほしい。	【町回答】 個別相談窓口等で詳しい状況をお伺いし、現地確認を行う。

No.	意見・質問(住民)	回答
4	瀬野川の堆積土砂の撤去の見通しについて教えてほしい。	<b>【県回答】</b> 浚渫土砂の調査を進めている。年内には浚渫工事の発注に取りかかりたい。
	資料3-2の海田町地域支え合いセンターを設置するということは困っている世帯が多いと思われる。そこで、一人暮らし世帯や高齢者世帯などの困らている世帯の数を教えてほしい。また、普段から訪問活動などはしているのか教えてほしい。	<b>【町回答】</b> 町としては、発災直後から保健師の訪問を行っており、現在540世帯を訪問した。その内、支援が必要な世帯は、18世帯と考えている。今後、海田町地域支え合いセンターで改めて訪問を行い、相談や支援などの対応について、社会福祉協議会で準備している。
5	熊野神社横から瀬野川の間暗渠（水路）に堆積している土砂を撤去してほしい。	<b>【町回答】</b> 応急復旧で土砂撤去はしているが、全ては撤去しきれしていない。現在、県が進めている奥之谷川の砂防えん堤の堆積土砂撤去が完了し、水路に土砂が流れ込まない状況になってから、再度、浚渫を行う予定にしている。
6	奥之谷川の砂防えん堤やえん堤から瀬野川までの水路の復旧にあたり、同じ形態での復旧ではなく、検証・見直しを行い、強化する必要があると思うが、県・町の見解を聞きたい。	<b>【県回答】</b> 今回の災害では、砂防えん堤の計画上の見込みより多くの雨が降り、多くの土砂が出てきた。そのような箇所が県下全域であった。今後の水害や土砂災害対策をどのように進めていくか、有識者会議で検証を行っているので、その検証結果を踏まえて今後の対応を検討して方針を定めていきたい。
		<b>【町回答】</b> 水路の流下能力が現在の断面で充分かどうか被災原因も含めて検討し、今年中に検討結果を出し、流下能力が不足している場合は、改良も含めて改良方法について検討する。

No.	意見・質問(住民)	回答
7	石原地内には、えん堤が3箇所あるが、その確認はしてもらえるのか。	【県回答】 土砂が埋設している箇所の点検は行っている。今後も定期的に点検を行い、えん堤の管理を行う。
	県道沿いの水路に溜まった土砂は撤去してもらえるのか。	【町回答】 気付いた箇所や要望のあった箇所から順次対応しているが、まだ全てが撤去できていない。そのような箇所があれば、復旧のスピードを上げて取り組んでいく。
8	護岸工事で町役場の建設課に問い合わせたが、護岸を管轄する県（西部建設事務所）に直接聞くように案内された。町役場しか利用できない状況だったので、もっと町と県（西部建設事務所）で連携をとってほしい。	【町回答】 職員の対応について、大変申し訳ない。被災者に寄り添った対応を心掛けているが、まだまだ至らなかった。職員に対しても指導する。なお、今後は、町に言うだけであれば、県と連携して対応していく。
	三迫地区は高齢者が多く、防災訓練でも避難所まで徒歩で50分も掛かったため、近くの高台への避難所設置を検討しているか検討状況を教えてほしい。	【町回答】 災害後の台風の際にも、バスを準備するなどし、避難をしてもらおう方法を考えている。今後も防災体制を強化していく中で、新たな避難施策についても今回の災害を検証した上で検討していく。
9	瀬野川左岸（大正町）の本復旧の時期を教えてほしい。	【県回答】 現在、応急復旧工事を終えている。本復旧に向けて国の査定を受けた上での、今年度中の完成を目指している。
	瀬野川の堆積土砂を撤去する計画はあるか。	【県回答】 今年の12月中には発注を行い、順次、浚渫工事に着手していく。

No.	意見・質問(住民)	回答
10	畝二丁目地区（楠木谷川）の砂防えん堤は、土砂で一杯になっているが、砂防内の土砂は撤去するのか。	【県回答】 上流の支川のところにも県の管理ではない砂防えん堤が1基あるが、状況を確認して、どういう対応ができるのか検討したい。しかし、砂防ダムについては、基本的には、水通しまでは、土砂が溜まることを前提として施設を設定しているので、その範囲であれば問題はない。砂防えん堤の上まで土砂が溜まっているようであれば撤去する。
	畝二丁目地区（楠木谷川）の砂防えん堤は、どのようなものを作るのか。	【県回答】 新たに整備する砂防の形や大きさについては、調査を行い、詳細の設計を行っており、それが固まり次第、改めて整備位置などを説明する。その際には、用地の関係なども協力をいただくことになるので、協力をお願いしたい。
	畝二丁目地区（楠木谷川）の砂防えん堤の水路の護岸工事を、今回の砂防えん堤工事に合わせて護岸のコンクリート工事をしてほしい。	【町回答】 砂防えん堤防の場所や形態がまだ検討中ではあるが、下の既存のコンクリート3面張りの水路までの区間は、砂防えん堤と合わせて流路の整備は行う。
	赤羽川の砂防えん堤の左側が崩れているが、その対策は考えているのか。	【町回答】 状況は把握している。日浦山の登山道の土砂は撤去できるが、当該箇所は民有地のため、民有地の法面については、地権者とどういう対応ができるか協議をして対策を検討する。
	資料5の土砂撤去制度の申請期限はいつまでか。	【町回答】 期限の定めはないが、今日は、相談窓口を設置しているので相談していただきたい。
	日浦山一体は、崩れやすいので、予防という観点から予算を付けて少しずつでも対応することが重要と考える。	(ご意見として受付、回答を割愛)

No.	意見・質問(住民)	回答
1 1	奥之谷川の西側の道路は、地中の土が流されて中が空洞になって陥没するという危険性はないのか。	<p><b>【町回答】</b> 歩行者が通れないようにバリケードを設置している。県と連携して対応を検討していく。</p>
	発災直後、恵比須神社付近では、付近の住民の車が公道を通行ができず、私有地と私道を通っていたため、今後、公道の通行ができなくなった場合には、町の方で私有地等を通れるようにしてほしい。	<p><b>【町回答】</b> 発災直後の状況は把握しているが、町が私有地を通行するように勧めることはできない。しかし、今後、仮に同じような状況が発生すれば、私有地の方にも協力いただけるよう臨機応変な対応をしていく。</p>
	恵比須神社付近も車が通れる公道にしてほしい。	<p><b>【町回答】</b> 具体的な場所や地権者の方のこともあるので、後ほど個別で説明をさせていただきたい。</p>
	奥之谷川の砂防えん堤の南側の土砂の流れが、ハザードマップと違っていたため、今後のハザードマップ作成時には、考慮してほしい。	<p><b>【県回答】</b> 土砂災害警戒区域については、砂防えん堤の完成前のため、砂防えん堤がない状況を想定して区域を設定しており、大量の土石流の真っ直ぐ流れる性質を基にハザードマップには記載してある。しかし、砂防えん堤がある程度完成しており、下流に流れた土石流の量が少なかったことから、水路に沿って流れたものと想定している。今後、砂防えん堤の完成後は、砂防ダムの効果を考慮し、土砂災害警戒区域については見直しを行いたいので、その際には説明をさせていただく。</p> <p><b>【町回答】</b> 土砂災害警戒区域のハザードマップの作成の際には、ワークショップを開催し、意見を聞くので、そのような形で反映させていく。</p>
	広島市の公民館で被災者の必要品の支援の取り組みが行われたが、被災者の困りごとを聞いた1人の発案からと聞いている。被災者の方にとって必要なものを町が把握して、それを教えてほしい。	<p><b>【町回答】</b> 10月1日に開設する、地域支え合いセンターは、困っていることについての個別の相談や訪問など行うので、参考にさせていただく。</p>

No.	意見・質問(住民)	回答
12	奥之谷川の砂防ダムから薬師寺前の間でコンクリートで護岸していない箇所があり土砂で流されているが、コンクリートで復旧するのか。	<b>【県回答】</b> 奥之谷川の砂防えん堤の下流の流路については、コンクリート三面張りで、えん堤完成後に合わせて整備していく。
	恵比須神社付近の私有地に住宅が建設される時に道を広げることができなかつたのか。	<b>【町回答】</b> これまでは広げることができなかつたが、災害時のこともあるので、これまでの経緯を検証して、町として対応できることは対応していく。
13	発災直後に町外からのボランティア用駐車場として新公民館建設地が開放されれば助かつた。今後は、ボランティア用の駐車場も町として考えてほしい。	<b>【町回答】</b> 今回の災害を教訓に、そういう面も検証し、対策を講じていく。
14	南小学校グラウンドに土砂が流れ込んでいるが、復旧の時期を教えてください。	<b>【町回答】</b> 11月末の予定だが、土砂置き場の受入れがスムーズに行くようなので、前倒しもあり得る。